

# 教務だより

2014年4月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 4月、目的を持ってはじめよう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

この文章を書いている今は、4月の初旬、「桜が満開」という噂。電車の窓から時々それらしい華やかな桜が見えます。街の路地の奥にもちらちらと、いろいろな花が満開の様子。春期講習に入る頃はまだ寒く桜もまだまだと思っていたのに…。春期講習が終わって休みが来る頃には、花は散ってしまうのか？受験が終わってゆっくりしようと思っていたところに「新学期」は、唐突にやってきます。

「受験はまだまだ先」とたかをくくっている新しい学年の生徒との最初の対決が始まるのです。「勉強をする子」と「勉強しない子」の格差はどんどん広がっていく気がします。普通の生徒で、まじめに勉強しているようでも、認識が志望校に届いていない場合があります。あの先輩でも合格したのだから、自分も出来るだろうというようなことを生徒は考えています。「たいして勉強もしなかった」と先輩は言っていたし…。「合格体験記」の中によく出てくることに、合同特訓や夏期合宿などの全体行事の中で「まわりの生徒に比べて、自分があまりに出来なくて…これはまずい！やらなきゃと思った…」という内容を意外と多く見受けられます。塾に通っている生徒でも、時代は「個別」。合格するしないより、勉強を適度にやっているということだけに満足しているケースもよく耳にします。

受験勉強の最初では、「何で勉強しなきゃいけないのか？」「勉強しなくても生きていけるし…」。「この勉強が何に役にたつのか？」、子供達の論理は今の自分に一番都合がいいように、展開していきます。熟知りの大人のお説教はくだらなく、「勉強なんか何の役にもたたない！」というような別の大人の意見の言葉の一部だけ捉えて賛同します。

最近私は、「勉強を何のためにするのか？」という問いには、「自分で自分の人生を決めていくために必要」と、即座に答えるようにしています。勉強が自由に出来なかった時代は、自分の将来は自分で決められない時代でした。今はそうはいきません。自分の道は自分で決めなくてはならず、どんな道に進んでも、最低限の教養は必要となります。「大学受験」までの学習内容は、何が自分にとって必要なのか、何が自分に向いているのかを知るための、考える基礎となる「知識」ともいえます。またどんな生き方をするにしても、学ぶ姿勢がその人の未来を照らすことは間違いありません。受験勉強は、「試される」というマイナスはあるものの、基礎学力を保証するという点では最も有効です。

ただし、勉強を「不必要」と決めつける傾向は、残念ながら年齢期の子ほど多いような気がします。目的を見失っているのかもしれない。

将来に大きく影響する「受験」のレベルを見せ、合格へ導くのが塾の役割と考えています。だから、4月のテーマは、「目的を持ってはじめる」です。

今年一年、どこに向かって進んでいくのか、まず決めてほしいということです。もちろん塾ですから、進路に関する目的になります。新しい年度に、自分が進みたい方向を決めそれに向かって、一年の目標を決めるということです。目的がなければ、どこに進んでいくのかが判りません。地図がないまま目的地を目指すような手探りの毎日になってしまいます。春はすぐに夏になり、一年は流れ、また受験が始まるでしょう。

卒塾式で配布した DVD を一人で観る機会がありました。受験していった生徒たちの屈託のない笑顔のナップ…。山あり谷あり、結構いろんな局面があったのに、そこではみんな笑顔です。一度きりの出会いそして別れ、楽しくも懐かしい…。そして繰り返される受験期。何気ない写真の数々をみていてそれがとてもかけがえのないものに思えてきます。やっているとときはひたすら苦しい体験でも、楽しい思い出として残ることが出来るということです。つらいという毎日でも、それは普通の日常であり、笑顔があるうちは大丈夫です。震災や戦争がそれを奪わない限り、人は明るく生きていける気がします。受験を恐れないこと…。春4月、新しい生徒とまた新しい体験が始まります。

合言葉は「目的を持ってはじめる」。もちろん私達の目的は「受験に合格」です。